

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200895	事業の開始年月日	平成16年3月
		指定年月日	平成16年3月
法人名	社会福祉法人まごころ会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒 241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年1月21日	評価結果 市町村受理日	令和2年4月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>神田園文法を用いてお声がけする事でご利用者さまの意思決定支援と尊厳の保持に努めています。 「お手伝い」により持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係の構築に重点を置いて活動しています。 また、上位の承認欲求に対して日本漢字検定協会の「漢検」を取り入れ、一人ひとりにあわせた勉強の支援やお手伝いをする事で日々の生活の充足感と他者から認められる・評価されたいという内面の欲求へ対応しています。</p> <p>オンライン動画研修システムを導入しました。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月19日	評価機関 評価決定日	令和2年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、相鉄線「鶴ヶ峰駅」から徒歩10分程の閑静な住宅地に立地している。建物は鉄骨造りの2階建てで、2ユニットからなり、各ユニットの中央には吹き抜けの坪庭があり、開放感のある明るい共有空間になっている。対面式のキッチンで、利用者を見守りやすい設計になっている。理事長兼管理者は、自身の目指すグループホームを作るために、法人を立ち上げ運営に当たっている。</p> <p>【利用者主体の支援の実践】 管理者は理念として「神田園大原則」を、その行動指針として「神田園文法」を定め職員が利用者を介護者目線ではなく、家族目線で接するよう指導している。職員は利用者の要望をまずは受け入れ、利用者にとって良き理解者であるとの認識を得て、その上で要望に沿う支援をするように努めている。利用者に提案する場合もあくまでも利用者の都合を優先するようにして、決して無理強いすることのない支援を心掛けている。</p> <p>【管理者による数多くのユニークな発想】 管理者は、利用者との情報交換を行うために「ほのぼの会」を立ち上げ、利用者にも目標を持った人生を送って頂くための一助として「漢字検定資格」を修得する仕組みも取り入れている。また、利用者、家族、そして職員からの要望・意見を取り入れるための「リクエストシート」の導入、更に、管理者と職員、家族との情報交換にグループLINEやショートメールを活用するなど、様々なアイデアを実践している。</p> <p>【熱意ある職員の育成】 管理者は採用時の面接で理念、行動指針を説明し、職員は納得の上で入職している。「エルダー・メンター制」を導入し、育成、定着を図っている。「基本介護技術」のマニュアルにも「神田園文法」が引用され、自然と学べるように工夫されており、研修もeラーニングを導入し、自由な時間に学習ができるようにしている。また職員の資格取得に際しても、費用は事業所が負担し取得の促進を図っている。更に職員相互が、年齢、役職関係なく楽しむためのクラブ活動も活発に行われている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。	理念である「神田園大原則」は、開設前より理事長である管理者が作成したもので、その思いは強く、職員に対してもしっかりと浸透している。行動指針である「神田園文法」があることで、言葉遣いも含め、職員は統一された支援が実践できていると実感している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶、地域の行事参加、ボランティア（マンドリン演奏やお話し相手、紙芝居）と繋がっている。地元の中学生とも交流している。	笠町内会に加入し、盆踊りやどんど焼き、鶴ヶ峰ケアプラザで開催される「ふれあい祭り」に利用者と職員で参加している。事業所は町内会の「災害対策プロジェクト」のメンバーで、「いっとき避難場所」にも指定されている。また、貸出用のファーストエイドキットを設置し、「子供110番」や「ハマハグ」にも登録している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。</p>	<p>参加者は、町内会長、地域ケアプラザ職員、家族、職員で活発な意見交換を促すために管理者はあえて出席していない。尚、職員の日々の支援の様子を見てもらい、職員にも刺激となるように、事業所のフロアにて開催されている。事業所HPにも議事録が掲載されている。最近の取組みでは防犯目的でカメラ設置の依頼があり、事業所の5ヶ所に設置し、地域の見守りに役立っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている</p>	<p>旭区高齢・障害支援課が窓口になっている。「ふれあい祭り」では、地域のグループホームと共同で認知症相談ブースを開設し、地域住民と意見交換を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はせずセンサーや見守りの中で安全を図っている。	身体拘束をしない旨、重要事項説明書に明記している。「身体拘束適正化検討委員会」は3ヶ月毎に、管理者、理事、職員代表の出席で開催している。玄関、ユニット出入口のドアは日中開放しており、身体拘束はない。スピーチロックについても「神田園文法」により、言葉遣いにも十分注意した支援が実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	導入したEラーニング研修システムにおいて受講できる。職員が毎日手に取るファイルの表紙に防止喚起の用紙が貼られている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となることで説明に間違いや伝え間違いがないようにしている		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にリクエストシートを置き、面と向かって言い難いことも率直に要望して頂けるよう配慮している。また、面会時にはお話を傾聴するよう努めている。</p>	<p>利用者との情報交換目的で「ほのぼの会」を設置している。家族と管理者は、ショートメールでやり取り出来るようにしている。更に「リクエストシート」も導入し、意見・要望を取り入れるようにしている。利用者との会話からヒントで、「漢字検定」取得の取り組みを行っている。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。	全体会議はないが、「リクエストシート」の活用、日々のコミュニケーションで職員の意見・要望を聞いている。一般連絡事項については、管理者と全職員のグループLINEを使い情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の仕事の中で、管理者とのマンツーマンで相談・指導が受けられる。新人にはエルダーメンターがつき、介護者が一番不安になる救命処置については毎年普通救命講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム管理者とは、会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、体験入居時、契約の事前説明時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、契約後はショートメールで気軽に意見交換ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみから台所仕事まで能力と健康状態に応じて可能な限り家事や様々なお手伝いをお願いし持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もとり入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている		

同じ環境を

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。	友人や知人の来訪があり、居室や広々としたリビングのソファでくつろいで話し込んでいる。携帯を持っている方が2名で家族とホットラインを結んでいる。他の方は電話の取次ぎをしている。漢字検定に取り組んでいるため、手紙を自分で書ける方が多く、投函の手伝いをしている。家族対応で帰宅や墓参り、美容室、教会などに行く方もいる。趣味の刺繍を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間をとりもって会話を促したり、皆で歌を歌ったり、ゲームなどをして相互交流を図っている。また、積極的にレイアウトや席替えをして、その時期の関係性や認知症状に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	表情やそぶりなどにも注意して気持ちを汲めるようにしている。また声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。	職員は入所時のアセスメントや、日常の支援、「リクエストシート」などを活用して、利用者の意向を把握している。意向や要望の把握が困難な方は、表情やしぐさなどから、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。またそれを日々のお手伝いやレクの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化やその時の発言や表情なども記録できるように書式を変更した		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話しあいに努めている</p>	<p>入所時に「センター方式」によりアセスメントを行い、3ヶ月間の一時的な「介護計画書」を作成している。この間で安定した生活が出来るかどうかを見極め、計画作成担当者が職員からの利用者の状況に関する情報を取得し、モニタリングを実施した上で改めて「介護計画書」を作成している。職員の参加するカンファレンスは行われていない。計画の見直しは介護保険更新時に行うことを、基本としているが、変化のある場合はその都度見直すことにしている。見直しの際には、医師、看護師の意見、家族の要望を取り入れている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の職員間の情報共有や日々の細かな事でも記録に記入する等してケアプランを作成している</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	専門医や美容室や商店など地域の情報を提供している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している	利用者は事業所の協力医を受診している。協力医は内科と循環器科で、月2回の往診がある。非常勤の看護師が毎週利用者の健康管理をしている。歯科医は毎週1回希望者に往診している。受診情報は「訪問介護ノート」に記入しているが、家族には毎月管理者が別途報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもらったものについては申し送りノートに記載し広めている		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している	契約時に、看取りは基本として実施しないことを説明し、同意を得ている。終末期を迎えた際には、家族の意向を確認し、病院などの紹介をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決め開始している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防避難訓練にも参加した。また水消火器を消防署からお借りして消火訓練をしている。	防災訓練を年2回実施し、夜間を想定した避難訓練と、消防署の立ち合いによる訓練を各1回実施している。訓練の中で、職員が手順通り行えるかの検証している。備蓄に関しては、事業所として1ヶ月分以上の米、水、レトルト食品を備えているが、利用者毎に3日分の非常食の入ったリュックサックを別に用意している。また、BCP(事業継続計画)の観点から函館のグループホームと「大規模災害時における支援協定」を締結し、効果を上げている。	町内会の「災害支援プロジェクト」に参加して、事業所自身が災害に被災した際の協力体制は出来ています。既に「いっとき避難場所」に指定されていますが、今後は地域全体が被災するという広域災害の際に地域の独居高齢者の受け皿となるための具体的な対応策を検討し、さらなる地域貢献を果たすことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩、目上の人、お客様、神田園の大原則を心得て尊厳を尊重した対応をしております	利用者を人生の大先輩として尊厳を大切にして、利用者から多くのことを学ぶようにしている。職員は常に神田園の理念、行動指針の実践を心がけている。個人情報を含む書類は事務所のカギのかかる書庫に保管している。接遇などの研修はe-ラーニングで、職員は自由な時間に受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～しませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	散歩、入浴などご自身のタイミングで叶えられるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で選べない方は2日連続して同じ服にならないよう職員が配慮している		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>各個人の能力に応じて普通食、ムース食を選択し、スタッフは利用者と同じテーブルで食事の雰囲気づくりをしている</p>	<p>朝食は職員が食材の調達から調理まで対応するが、昼食と夕食は主菜だけ食材業者から供給を受けている。利用者は下ごしらえや、テーブル拭き、下膳、食器ふきなどを職員と一緒にしている。誕生日会には「生涯で最高のプレゼント」となるメニューを職員が考え、提供している。クリスマスにはクラブ活動の一環である「スイーツクラブ」のメンバーと利用者が協力して、ケーキ作りを楽しんでいる。すし職人も年2回来訪している。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に各利用者が十分に摂取できているか日々記録をチェックし十分ではない人には補助食を提供している。水分量は医師の指示をもとにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、食前には口腔ケア体操をするので唾液の分泌を促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせ支援している	排泄パターンを把握して、トイレ誘導して自立を促している。布パンツを使用して自分でトイレに行っている方、リハビリパンツやパッドを使用している方、紙おむつを使用している方がいる。離床センサーを利用している方や、ポータブルトイレを利用している方もいる。トイレは各フロアに2ヶ所で、車いす対応である。清掃は毎朝職員が実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認とそれにあわせて歩行、足上げ、腹圧マッサージ、階段昇降、ストレッチなど下剤のみ頼らない排便コントロールを実施している		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>希望やタイミングに合わせて入浴支援。入浴中は1対1でゆっくりできる機会なのでお話しをしたりCDをかけたり入浴剤を入れてみたりする</p>	<p>入浴は週2回を基本としているが、入りたいとの要望があればいつでも入浴できるように対応している。「神田園文法」を使用して、時間と場所、人を替えて声掛けしているので、入浴されない方はいない。同性介助については、利用者個々の状況・状態に応じて対応している。しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤も使用して楽しんでいる。浴室、脱衣所ともエアコンで、ヒートショック対策がなされている。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方については寝たらそのままではなく30分~1時間ほどで声掛けを行なう。また、外気浴など太陽を浴びてもらったりして夜も眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードをつくり服薬の状況を勤務する介護者全員で確認できる。誤薬防止のため、薬の確認は介護者二人で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦し日々生活の張り合いや尊厳欲求への働きかけを行なっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればできるだけ叶えたいが、難しい場合も多い。ベランダやエアロバイクを自由に使えるようにしている。車で遠出することもたまにある。	ストレス発散も兼ねて散歩には対応しており、更にベランダでの外気浴や階段の昇降、エアロバイクと、様々な方法でストレス発散の支援をしている。家族対応で外出される方もいる。花見に近く公園や海軍道路にドライブに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できことを伝えていきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族にしたり、手紙を書いたりして家族との絆を大事にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視線をコントロールした居間フロアのレイアウトにより利用者同士の人間関係、認知症による混乱や不快刺激を軽減させている。	リビングは明るく広々としている。利用者が自分自身にとって居心地の良い場所を見つけられるように、色々な向きにソファを置けるスペースが確保されている。また、間仕切りをすると個室になるスペースもあり、利用者と職員、家族、知人が懇談する場になっている。リビングで漢字検定の試験勉強をしている利用者やのんびり過ごしている方がいる。壁には利用者の手作りの作品、習字などが飾られている。手作りの五輪のマークも作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	柱や間仕切りを利用して意図的に死角を作る事で共有空間でもプライバシーが保てるよう配慮している		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に自宅寝室の写真を撮っていただき、自宅と導線が同じになるよう引越し時レイアウトして頂ける様支援している</p>	<p>居室にはエアコン、換気扇、押し入れ、ナースコールなどが備えられており、利用者はテレビや、仏壇、写真、たんすなどを持ち込んでいる。居室の横に「個人用掲示板」を用意し、自分の作品を掲示する利用者もいる。季節の衣類の入れ替えは、職員と家族が実施している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食席のレイアウトや椅子を増やしたりと「自分らしく」生活を送って頂けるように配慮している。</p>		

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶、地域の行事参加、ボランティア（マンドリン演奏やお話し相手、紙芝居）と繋がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はせずセンサーや見守りの中で安全を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	導入したEラーニング研修システムにおいて受講できる。職員が毎日手に取るファイルの表紙に防止喚起の用紙が貼られている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となることで説明に間違いや伝え間違いがないようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カウンターにリクエストシートを置き、面と向かって言い難いことも率直に要望して頂けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	救命処置については毎年普通救命講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が地域のグループホーム管理者と会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が本人や家族の状況だけではなく、住んでいる利用者への影響なども考慮して入居の可否を決めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の体調によって家事活動を一緒に行なっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もとり入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で歌を歌ったり、ハーモニカを演奏してもらったり相互交流を図っている。また、必要にあわせレイアウトや席替えをして、その時期の関係性や認知症状に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化やその時の発言や表情なども記録できるように書式を変更した		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話しあいに努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の職員間の情報共有や日々の細かな事でも記録に記入する等してケアプランを作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者に相談して入居者のニーズの変化に則した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時に地域の公園や施設、病院、商店などをご紹介している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもらったものについては申し送りノートに記載し広めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に管理者がご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決め開始している	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡や消火訓練をした		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩、目上の人、お客様、神田園の大原則を心得て尊厳を尊重した対応をしております		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～しませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定を支援できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	可能な限り、散歩、入浴、起床時刻などご自身のタイミングで叶えられるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の能力に応じて普通食、ムース食を提供している。職員は普通食を利用者と同じテーブルで食べている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に各利用者が十分に摂取できているか日々記録をチェックし十分ではない人には補助食を提供している。水分量は医師の指示をもとにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、食前には口腔ケア体操をするので唾液の分泌を促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせで支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認とそれに合わせて歩行、足上げ、腹圧マッサージなど下剤のみ頼らない排便コントロールを実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り希望やタイミングに合わせた入浴支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方については寝たらそのままではなく30分~1時間ほどで声掛けを行なう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードをつくり服薬の状況を勤務する介護者全員で確認できる。誤薬防止のため、薬の確認は介護者二人で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦し日々の生活の張り合いや尊厳欲求への働きかけを行なっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	たまに車で遠出することもたまにある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できことを伝えていきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族にしたり、手紙を書いたりして家族との絆を大事にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視線をコントロールした居間フロアのレイアウトにより利用者同士の人間関係、認知症による混乱や不快刺激を軽減させている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	柱や間仕切りを利用して意図的に死角を作る事で共有空間でもプライバシーが保てるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅寝室の写真を撮っていただき、自宅と導線が同じになるよう引越し時レイアウトして頂ける様支援している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所にわかりやすく掲示し自立した生活ができるように支援している		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム神田園

作成日 2020年3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	広域災害時の地域高齢者の受け皿となる為の対応策	神田園のい、とき避難場所を利用する可能性のある高齢者の把握。	神田園の避難訓練の時に案内文を作り近隣に投函する。その中にアンケートを設けニーズを把握する	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。